八潮市史料編別巻発刊

よみがえる

潮止月報 八潮だより

県内でも特筆すべき地域紙

『八潮市史』発刊にあたり

八潮市長　鈴木泰治

人は終生、故郷に対し限りない愛着と思慕の念をいだくと言われております。

私たちの住む八潮市は、近年飛躍的に発展を遂げ、少年期に培われた郷土感と現在が異質と思え、ただ目を見張るばかりで、古き資料を手にしたときなどは、なつかしく昔を偲ぶことができます。

私が昭和十六年に八条村役場へ奉職した頃は、八人の職員で村政全般の仕事にあたっておりました。

その頃の広報業務は回覧が主で村民にお知らせするときなどは謄写版で印刷したものを、各地区の役員に頼めば、二・三日のうちに村政をお知らせすることができました。現在は、回覧にかわり広報紙が市政一般を知らせる役割を果しております。

この史料編別巻は八潮市域に現存する古い広報紙を復刻したものです。広報紙は、編纂当時の社会情勢を反映し、住民の主張や活動が報道されていますので、大正十年から昭和四十年までの民衆の考え方の変化や市の発展のあしあとを理解できる土の香り高い文化誌とも言えます。

この書が多くの市民の皆様に親しまれ、八潮市民であることに自覚をもち、より明るく住みよい豊かな街づくりに役立たせて欲しいと念願する次第です。

この書の内容は、解説と戦前版「潮止月報」、戦後版「潮止月報」「八潮だより」版、八潮市広報紙年表とにわかれ、八潮市域の広報紙を集録し復刻したものです。

解説は、市史編集専門員渡辺隆喜氏（明大助教授）と同専門員遠藤忠氏（市史編さん室長）があたり、渡辺氏は近代地方行政制度の歴史使命と広報紙の関係を述べ、遠藤氏は広報紙の普及と発行経過から地方政治と文化の媒体としての「広報」の性格について述べております。

「潮止月報」は、潮止連合青年会の機関紙として、大正十年（一九二一）十一月に創刊した広報紙です。当時、一九二〇年前後にかけ、大正デモクラシーの社会運動の一環として、地方改良運動のために広報紙などが編集されました。

「潮止月報」は、全国的にみても早い時期の編纂物です。埼玉県下を見ても、秩父郡「原谷村報」（現秩父市）につぐ古い地域紙で大正十年から昭和十八年までに、二〇四号が刊行されています。

内容は、国家行政と自治体行政についての一貫的な公報としての役割をになう令旨や公文、告示、辞令などを掲載、また村内事情やできごとを報道し、自治意識を高めようとしています。また、自治体の公的指導者の挨拶や調話、講演内容をのせ、社会教化をはかり更に信用組合の試算や勤倹貯蓄組合、品評会の成果を報じ、勧業意識の高揚をねらい、最後に村民の文芸趣向や論壇などをのせ、知識意欲を発露させています。

戦後版「潮止月報」は、潮止村報道委員会が昭和二十六年二月から同三十二年三月までに七三号刊行されています。

内容は、当時の高い知識を身につけた村民が、戦前の抑圧された社会で封じられていた知識意欲を「潮止月報」の論壇に求めていた様子がうかがえます。そのため、記事は村民の投稿によるものが多くなっています。

各団体の報告や個人研究発表、論説、意見などが多く、当時、戦後の民衆の考え方を知ることができる貴重な資料です。

「八潮だより」版は、八潮村報道委員会が昭和三十三年四月より同四十四年三月までに八三号刊行されております。

内容は、八条村や八幡村、潮止村が合併し、"八潮村"を造村し新しく村づくりをするために、従来の旧村意識を打破し、新たな住民意識を培い、行政理解を求める行政報道の記事が中心になっています。記事の多くは個人投稿の同好的な性格を多分に残しているので八潮村時代の事象を理解することができます。

「八潮市広報紙年表」は市域内でこれまでに発行された地域紙の刊行経過の中でとらえ、事象を年表化したものです。これまでに自治体広報紙を歴史的に扱った文献が少ないので、広聴業務の変遷がわかるものです。

大正十年より昭和四十年までの間、断続ではあったが、行政側が主にならない広報紙が発刊されたことはごくまれな例であり、県内でも特筆すべきことです。

近代史料の宝庫としての『潮止月報』

八潮市史監修者
文学博士　萩原龍夫

八潮市潮止地区には『潮止月報』というたぐいまれなる好史料が存在していると前から聞かされてきた。

いよいよ『八潮市史・史料編別巻』として、これが後続広報関係史料とともに復刻して収められるとなるというので、私もざっと瞥見する機会を得た。聞きしにまさる優れた史料であると感じた。

まず第一に、この史料は大正中期から昭和にかけての町村自治というものの実態とその意味についてさまざまのことを我々に語りかけてくれる。

第二にこうしたものの成立と持続が、明治後期にはじまる地方改良運動を基礎としているものであることを明瞭に示してくれるので読む者は地方改良運動の性格と影響とについての考察を力強く進させられるという効果を持つ。

第三に、地方文化という一般になかなか把捉しがたいものを、かなり広汎な局面にわたってこの史料は教えてくれる。

くわしいことは本書中に収められた「解説」にゆずるが、いずれにしてもこうした過去の長期にわたる刊行物がこんにちそっくり我々の面前に出現したというその意義は大きい。

八潮市は、もちろん数多くの文化遺産を含みもっている。それらの中でも、ここに復刊された「潮止月報」や「八潮だより」はまことに八潮市の歴史的宝物の随一といってよいと思う。この書が一人でも多くの八潮市民に御愛用できますことを念願し、おすすめしたい。

（明治大学教授）

刊行・頒布のお知らせ

明治大学教授萩原龍夫先生を監修者に迎えて「八潮市史」編纂の準備を進めてまいりましたが、この度『八潮市史』本編のうち「史料編別巻」を発刊することになりました。

本書は、前述のように、八潮市域内に現存する大正十年発刊の「潮止月報」と昭和二十六年発刊の「潮止月報」、昭和三十三年発刊の「八潮だより」を集録しています。

幸い、上木曽根に住む恩田栄子氏が全紙を保存されていますのでそれをもとに全号を復刻することができました。

つきましては、次のとおり頒布いたします。市民のみなさんのご家庭にもぜひ郷土の歴史の本『八潮市史』をおそろえください。

◇本のかたち
B5版・上製本布クロス・箱入
本文上質紙・背金文字入・
九五〇頁

◇頒布価格
印刷実費として三五〇〇円

◇予約申込み
購入をご希望の方は、次の取次所か、市史編さん室へ直接お申込み下さい。
※限定出版ですので頒布終了の節は受付られませんのでご諒承をお願いします。

また、予約申込みをした方は五月三十日までにお求め下さい。それ以降は予約を取消します。

◇本の引渡しと頒布
頒布は、四月三十日（月）から次の取次所と市史編さん室で行います。もよりの市施設や書店をご利用下さい。

1 八潮市役所　会計課・市史編さん室　電話96—2111
2 老人福祉センター　新田　電話95—2847
3 文化スポーツセンター　大原　電話96—7129
4 藤波書店　南後谷　電話31—5295
5 八潮書店　中馬場　電話96—0059
6 南天堂　草加駅前　電話22—3250
7 野村書店　戸ヶ崎　電話55—4767

くわしくは市史編さん室へお問い合せ下さい。

市史編さん物　愛読者の皆さんへ

市史編さん事業は、市民の皆さんが八潮市民であることに自覚を誇り、より明るく住みよい豊かなまちづくりをしていただくために先人が歩んだ歴史を明らかにし、現在に生きる市民の郷土に対する理解と愛着を深めていただくために、市史編さん物を刊行しています。

これまでの市史編さん物は、発刊して数週間で頒布が終了しておりますのでお早めに予約してください。

くわしくは市史編さん室まで
電話(96)—2111内線203

——これまでの市史編さん物——

1 八潮市近代史年表（昭和五十二年三月刊）　頒布終了
2 八潮の民家と社寺建築（昭和五十三年三月刊）残部僅少、価格一、〇〇〇円
3 八潮市史研究創刊号（昭和五十三年十月刊）　頒布終了